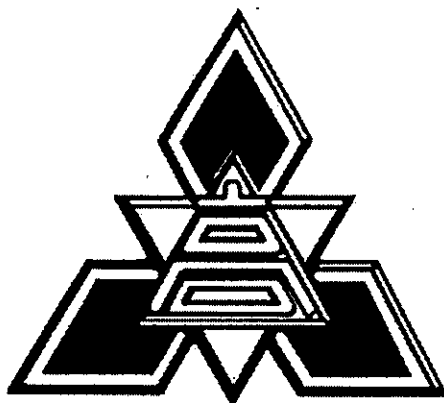


# 年間授業計画表

---

令和8年度 1年 商業科



SHINMINATO HIGH SCHOOL

富山県立新湊高等学校

## 1年商業科 年間授業計画表目次

ページ	教科名	科目名	単位数	コース	必修・選択の別
1	国語	現代の国語	2	全	必修
2	国語	言語文化	2	全	必修
3	地理歴史	歴史総合	2	全	必修
4	数学	数学Ⅰ	2	全	必修
5	理科	科学と人間生活	2	全	必修
6	保健体育	体育	3	全	必修
7	保健体育	保健	1	全	必修
8	芸術	音楽Ⅰ	2	全	選択
9	芸術	美術Ⅰ	2	全	選択
10	芸術	書道Ⅰ	2	全	選択
11	外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	全	必修
12	商業	ビジネス基礎	3	全	必修
13	商業	ビジネス・コミュニケーション	2	全	必修
14	商業	簿記	4	全	必修
15	商業	情報処理	3	全	必修

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業科	単位	2	教科	国語	科目	現代の国語	
学習教材	教科書 「精選 現代の国語」 第一学習社									
学習目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。									
単元と内容										
1 学期	『何も知らない〈私〉』を知るこ と 『間』の感覚 「日本語は世界をこのように捉え る」 『私作り』とプライバシー 「話し方の基礎レッスン」 「スピーチで自分を伝える」 「理想の修学旅行をプレゼンする」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例と筆者の主張との関係を捉え、読書や学問についての筆者の考えを自身に引きつけて考える。</li> <li>・論理の型として、「対比」の関係を学ぶ。</li> <li>・論理の型として、「具体と抽象」の関係を学ぶ。</li> <li>・論理の型として、「事実と意見」の関係を学ぶ。</li> <li>・相手により伝わりやすい表現方法を理解する。</li> <li>・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。</li> <li>・相手の心に訴えかけるプレゼンテーションの方法を理解し、実践する。</li> </ul>								
2 学期	「水の東西」 「ものごとことば」 「人工知能に未来を託せますか」 「現代の『世論操作』」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。</li> <li>・具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して文章の論理構成を把握し、筆者が主張する言語の性質を理解する。</li> <li>・AIと対比して説明されている人間の性質を捉え、科学技術の進歩と人間の役割について考察する。</li> <li>・情報操作の具体例を通して筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者として問題意識を持つ。</li> </ul>								
3 学期	「生と死が創るもの」 「書き方の基礎レッスン」 「社会に対する意見文を書く」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三つのまとまりの関係性を捉えて内容を把握し、生命科学の観点から提示される「死」について考えを深める。</li> <li>・情報を相手にわかりやすく説明する方法を理解する。</li> <li>・意見文の書き方を理解して実践し、評価する。</li> </ul>								
評 価										
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の基準〕				評価のフィードバック				
						1期中	1期末	2期中	2期末	学年末
①	知識・技能	・実社会に必要な国語の知識や技能を習得している。				○	○	○	○	○
②	思考・判断・表現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深めることができる。				○	○	○	○	○
③	主体的に学習に取り組む態度	・授業内で自分がやるべきことを探し、粘り強く課題に取り組む。 ・授業から新たな疑問を見つけることができる。					○		○	○
評価方法	①		②			③				
	⑦定期考査 ④小テスト ②ノート点検		⑦定期考査 ④授業で作成した作品 (プレゼンテーション、意見文など)			⑦ワンペーパーポートフォリオ ④ループリックによる相互評価 ②各種課題提出状況 ①話し合い活動への参加状況				

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業科	単位	2	教科	国語	科目	言語文化
学習教材	教科書 「高等学校 新編言語文化」 第一学習社								
学習目標	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わることができる。								
単元と内容									
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊曾保物語</li> <li>・竹取物語</li> <li>・よろこびの歌</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文読解のために必要な歴史的仮名遣いや現代語との違い、用言の活用などを理解する。</li> <li>・「読むこと」において、文章に書かれた人物像や心情を、表現に即して読み味わう。</li> <li>・文学作品に触れることで語感を磨き、語彙を豊かにする。</li> <li>・漢文読解のために必要な訓読の決まり、漢文の特徴や書き下し文の決まりを理解する。</li> <li>・「書くこと」において、参考作品をもとに、自分の知識や体験を題材とした随筆を書く。また読み合い、感想を伝え合う。</li> </ul>					
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほねとたね</li> <li>・徒然草</li> <li>・短歌</li> <li>・枕草子</li> <li>・羅生門</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、登場人物の人物像を把握し、人間関係が主人公にもたらした心情の変化を読み取る。</li> <li>・「読むこと」において、法師の失敗から教訓を読み取る。</li> <li>・「読むこと」において、それぞれの短歌が描く情景や心情を読み味わう。</li> <li>・「読むこと」において、貴族の生活感覚を反映した文章を読んで、ものの見方、感じ方を理解する。</li> <li>・「読むこと」において、文章に書かれた人物像や心情の変化を整理する。また本文と典拠作品を比較して意見交換を行い、自分の考えを広げたり、深めたりする。</li> <li>・「書くこと」において、下人のその後を創作する。</li> </ul>					
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I was born</li> <li>・漢詩</li> <li>・奥の細道</li> <li>・論語</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、表題がどのようなイメージで捉えられているか、父が僕に何を伝えたかったのかを理解する。</li> <li>・漢詩のルールや形式、表現技法を学ぶ。</li> <li>・「読むこと」において、作品の情景や心情を読み取る。</li> <li>・「読むこと」において、作者の旅に対する思いをまとめる。</li> <li>・「読むこと」において、孔子の理想とする生き方や人との関わり方を読み取り、整理する。</li> </ul>					
評 価									
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の基準〕			評価のフィードバック				
					1期中	1期末	2期中	2期末	学年末
①	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典作品を読むために必要な基本的な知識を習得し、読解や解釈に取り組むことができる。</li> <li>・作品の成立背景について知識を深めるとともに、内容をおおむね理解することができる。</li> </ul>			○	○	○	○	○
②	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中のものの見方・感じ方・考え方をとらえ、自分なりの意見を持つことができる。</li> <li>・既存の作品の文章構成を参考にして、自分の体験や気持ち・考えを書くことができる。</li> </ul>			○	○	○	○	○
③	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で自分がやるべきことを探し、粘り強く課題に取り組む。</li> <li>・授業から新たな疑問を見つけることができる。</li> </ul>				○		○	○
評価方法	①			②			③		
	㊦定期考査 ㊧小テスト ㊨ノート点検			㊦定期考査 ㊧授業プリント			㊦ワーカー・パートナー ㊧グループによる相互評価 ㊨各種課題提出状況 ㊩話し合い活動への参加状況		

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業科	単位	2	教科	地理歴史	科目	歴史総合	
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「歴史総合 近代から現代へ」山川出版社</li> <li>・「歴史総合資料集」山川出版社</li> <li>・「歴史総合用語解説」山川出版社</li> </ul>									
学習目標	(1) 生活や社会の変容について、資料から情報を読み取ったりまとめたりできる。 (2) 生活や社会の変容について、論理的に考察し、問いを表現することができる。 (3) 近現代の歴史の諸事象と現代との関わりを考え、授業から新たな疑問や課題を見つけだすことができる。									
単元と学習内容										
1 学期	近代化と私たち ・結びつく世界 ・近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 ・明治維新と日本の立憲体制 ・帝国主義の展開とアジア ・近代化と現代的な諸課題	18世紀ごろのアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係 イギリスに始まる産業革命が、世界各地の社会や経済に与えた影響とアジアと欧米の関係の変化 国民国家誕生の経緯と、国民統合の進展が人々に与えた影響 帝国主義政策が国際社会に与えた影響 産業革命に始まる工業化が人々にもたらした課題								
2 学期	国際秩序の変化や大衆化と私たち ・第一次世界大戦と大衆社会 ・経済危機と第二次世界大戦 ・戦後の国際秩序と日本の改革 ・国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	第一次世界大戦開戦までの経緯とその被害 大量生産や大量消費が国民生活に与えた影響 世界恐慌とその後の各国の対応が第二次世界大戦に与えた影響 第二次世界大戦後の国際社会でおこった対立とその影響 冷戦下における日本に期待された役割 近代オリンピックにおける「平等」と「格差」の問題								
3 学期	グローバル化と私たち ・冷戦と世界経済 ・グローバル化する世界 ・現代の課題 ・現代的な諸課題の形成と展望	冷戦が各国経済に与えた影響と地域紛争による課題 市場経済のグローバル化や経済自由化が世界経済に与えた影響 複雑に絡み合う現代の諸課題への対応 持続可能な社会の実現のために解決されなければならない課題								
評価										
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕				評価のフィードバック				
						1期中	1期末	2期中	2期末	学年末
①	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時代における事実的な知識を習得し、関係図などの概念的理解と結びつけることができる。</li> <li>・資料から読み取れることなどを、他者との意見交換をとおして自分の考えに反映できる。</li> </ul>				○	○	○	○	○
②	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な事象のもつ意味や事象間の関係性について、知識や概念、資料を根拠に説明できる。</li> <li>・「因果関係」「視点の転換」「史料の作り手の意図や背景」「比較」などから問いを表現できる。</li> </ul>				○	○	○	○	○
③	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の諸課題と近現代の歴史事象との関連を自分の言葉で説明する。</li> <li>・現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を問題意識をもって考察する。</li> </ul>					○		○	○
評価方法	①		②			③				
	㊦定期考査 ㊧小テスト ㊨ノート点検		㊦定期考査 ㊧授業プリント			㊦授業プリント ㊧ルブリックによる評価 ㊨各種提出状況 ㊩討論への参加状況				

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業科	単位	2	教科	数学	科目	数学 I	
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書「改訂版 新編 数学 I」数研出版</li> <li>「Study-Up ノート 数学 I 標準 新課程 教科書傍用」数研出版</li> </ul>									
学習目標	<p>(1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする能力を身につける。</p> <p>(2) 物事を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、社会の事象などに関連付けて、論理的に考察し表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用していこうとする態度を養う。</p>									
単元と内容										
1 学期	第1章 数と式 式の計算 実数 1次不等式 第2章 集合と命題	<ul style="list-style-type: none"> <li>多項式の整理、式の展開、公式やたすき掛けを利用した因数分解を理解する。</li> <li>実数の分類、絶対値の性質、根号を含む四則演算、分母の有理化ができる。</li> <li>解の意味を理解して1次不等式、連立不等式を解く。絶対値の定義や性質をもとに、絶対値を含む方程式・不等式を解く。</li> <li>集合の記号や性質の確認。命題とその逆・裏・対偶などの真偽の関係について理解する。</li> </ul>								
2 学期	第3章 2次関数 2次関数とグラフ 2次関数の値の変化 2次方程式と2次不等式	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数についての理解を深める。2次関数を式変形(平方完成)してグラフをかく。</li> <li>2次関数のグラフを利用して、最大値・最小値を求める。</li> <li>2次関数のグラフと <math>x</math> 軸の位置関係を利用し、2次不等式を解く。</li> </ul>								
3 学期	第4章 図形と計量 三角比 三角形への応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角比についての理解を深め、三角比の相互関係を理解する。</li> <li>正弦定理、余弦定理、面積の公式を利用して、辺や角、面積を求める。空間図形では、空間図形の中の平面図形に着目する。</li> </ul>								
評 価										
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる) 規準〕				評価のフィードバック				
						1期中	1期末	2期中	2期末	学年末
①	知識・技能	各単元における基本的な概念や原理・法則を理解している。				○	○	○	○	○
②	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて適切に式を変形することができる。</li> <li>事象を的確に捉えて、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。</li> </ul>				○	○	○	○	○
③	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善しようとしている。</li> <li>問題解決のために、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。</li> </ul>					○		○	○
評価方法	①		②			③				
	㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト		㊦ 定期考査 ㊧ 発表 ㊨ 討論への参加状況			㊦ 各種課題提出状況 ㊧ 定期考査 ㊨ 討論への参加状況				

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業科	単位	2	教科	理科	科目	科学と人間生活
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書「科学と人間生活 新訂版」実教出版</li> <li>ワーク「科学と人間生活 新訂版 エブリイノート」実教出版</li> <li>ワーク「科学と人間生活 新訂版 学習ノート」実教出版</li> </ul>								
学習目標	<p>(1) 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解し、科学的な見方や考え方ができる。</p> <p>(2) 科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解できる。</p> <p>(3) これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察できる。</p>								
単元と学習内容									
1 学期	1章 科学と技術の発展 1節 科学と技術の始まり 2節 海一特に深海を科学の眼で見よう 3節 土一農業を通して考える 2章 物質の科学 1節 材料とその再利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>古代から現代に至る技術の発展を学習し、これからの科学や技術のあり方を考える。</li> <li>海洋探査に関する科学技術の発展を学習し、海中の生態系や海底のプレート、海底資源の調査に関して理解する。</li> <li>土壌とは何かを学習し、土壌の役割、土壌に生きる生物たち、肥料の利用と農業における科学技術の活用を学ぶ。</li> <li>日常生活において使われる様々な物質について学び、物質とは何かから金属、プラスチック、セラミックスの性質と利用について学習する。</li> </ul>							
2 学期	3章 生命の科学 2節 微生物とその利用 4章 光や熱の科学 1節 熱の性質とその利用 5章 宇宙や地球の科学 2節 身近な自然環境と自然災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>微生物とは何か、その発見と様々な利用に関して学習する。</li> <li>生態系における微生物の役割とはたらきに関して学習する。</li> <li>熱とは何か、温度との違いは何かを理解するとともに熱はエネルギーの一種であり、電気等の他のエネルギーに変換されて利用されていることを学習する。</li> <li>身の回りの景色・景観がどのようにできたかを学習し、その原因がプレートの運動であることを学習する。</li> <li>景観を生み出した自然現象による恵みと、災害について学習し、防災について考察する。</li> </ul>							
3 学期	6章 これからの科学と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2学期で学習した内容を踏まえ、これからの科学・技術のあり方について学習し考察する。</li> <li>環境問題は多岐にわたることを学習し、持続的発展とは何かを考察し、その方策について考察する。</li> <li>持続的発展に関する方策に関する課題を設定し、レポートの作成を通じて探究する。</li> </ul>							
評価									
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学・技術に関する様々な過程や知識を理解できる。</li> <li>図やグラフの表している事象を理解できる。</li> </ul>	○	○	○	○	○		
②	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>データから適切なグラフや図を作成したり選択したりできる。</li> <li>複数の資料を用いて、自分の考えたことを表現できる。</li> </ul>	○	○	○	○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な科学を自分の経験と照らし合わせて考えることができる。</li> </ul>		○		○	○		
評価方法	①		②			③			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦定期考査</li> <li>㊦小テスト</li> <li>㊦提出物</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦定期考査</li> <li>㊦授業プリント</li> <li>㊦課題レポート</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦定期考査</li> <li>㊦課題レポート</li> <li>㊦各種提出物の提出状況</li> </ul>			

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業	単位	3	教科	保健体育	科目	体育
学習教材	・教科書 現代高等保健体育 改訂版(大修館書店) ・体育簿(富山県体育保健学会) ・資料集 図説現代高等保健 改訂版(大修館書店)								
学習目標	(1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けることができる。 (2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、それらの解決に向けて思考し判断するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えるコミュニケーション能力の伸長を図ることができる。 (3)運動における競争や協働の経験を通して一人一人の違いを大切にしようとするなどの調和のとれた豊かな人格の形成を図るとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたり継続して運動に親しむ態度を養うことができる。								
単元と学習内容									
1 学期	体づくり運動 以下、同じ印から選択(☆○△□ ■) ☆陸上競技・ 短距離走、ハードル、リレー ☆球技・バレーボール 体育理論	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方などを理解するとともに、自己の体力に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てる。 陸上競技の短距離走では滑らかに走ることや高いスピードを維持して走る能力、ハードル走ではスピードを維持してハードルを低くリズムカルに越す能力、リレーでは中間走の高いスピードを維持して速く走る能力を身に付ける。 バレーボールは状況に応じたボール操作やチームの連携した動きを習得するとともに、攻防を展開して、ゲームを行う。 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通してスポーツに関する能力を身に付ける。							
2 学期	体づくり運動 ○球技・サッカー ○球技・バスケットボール 陸上競技・中長距離走 △器械運動・マット運動、 △ダンス・創作ダンス	1学期と同じ 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、状況に応じたパスやドリブル、シュートなどのボール操作と、空間を埋めるなどしながら、チームで連携したプレイを使って攻防を展開し、ゲームを行う。 記録の向上や競争及び課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わうとともに、ペースの変化に対応して走る能力を身に付ける。 回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行い、それらを構成し演技する。 感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりするなどの多様な楽しさや喜びを味わうとともに表現力を身に付ける。							
3 学期	□球技・バスケットボール □器械運動・マット運動 ■球技・卓球 ■球技・バドミントン 体育理論	バスケットボール、器械運動は2学期と同じ。 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、各種ストローク・サービスなどの安定したシャトル操作・ボール操作やダブルスにおけるパートナーとの連携した動きを高めて、ゲームを展開する。 体育理論は1学期と同じ。							
評 価									
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の基準〕	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	・技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などについて理解している。 ・基本的な技能を身に付けている。		○		○	○		
②	思考・判断・表現	・運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに考えたことを他者に伝えている。		○		○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	・各種運動に積極的に取り組もうとしている。 ・演技などの話し合いに参加しようとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。		○		○	○		
評価方法	①		②			③			
	⑦学習カード ⑧観察 ⑨記録・実技テスト	⑦学習カード ⑧観察	⑦学習カード ⑧観察						

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業	単位	1	教科	保健体育	科目	保健
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 現代高等保健体育 改訂版(大修館書店)</li> <li>・資料集 図説現代高等保健 改訂版(大修館書店)</li> </ul>								
学習目標	<p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、健康に関する技能を身に付けることができる。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養うことができる。</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができる。</p>								
単元と学習内容									
1 学期	現代社会と健康	<p>現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、以下に示した項目のそれぞれに対応する知識や考え方、技能などを身に付ける。また健康や安全に関する原則や概念に着目して課題解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。</p> <p>01「健康の考え方と成り立ち」 02「私たちの健康のすがた」                      03「生活習慣病の予防と回復」 04「がんの原因と予防」                      05「がんの治療と回復」 06「運動と健康」                      07「食事と健康」 08「休養・睡眠と健康」</p>							
2 学期	現代社会と健康	<p>09「喫煙と健康」 10「飲酒と健康」                      11「薬物乱用と健康」 12「精神疾患の特徴」                      13「精神疾患の予防」 14「精神疾患からの回復」                      15「現代の感染症」 16「感染症の予防」                      17「性感染症・エイズとその予防」                      18「健康に関する意思決定・行動選択」                      19「健康に関する環境づくり」</p>							
3 学期	安全な社会生活	<p>安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、以下に示した項目のそれぞれに対応する知識や考え方、技能などを身に付ける。また健康や安全に関する原則や概念に着目して課題解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。</p> <p>01「事故の現状と発生要因」 02「安全な社会の形成」                      03「交通における安全」 04「応急手当の意義とその基本」                      05「日常的な応急手当」 06「心肺蘇生法」</p>							
評価									
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の基準〕	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	○	○	○	○	○		
②	思考・判断・表現	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	○	○	○	○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。		○		○	○		
評価方法	①		②			③			
	㊦定期考査 ㊦ワークシート ㊦観察 ㊦実習での技能習得状況		㊦定期考査 ㊦ワークシート ㊦観察			㊦ノート点検 ㊦授業プリントなどの提出状況 ㊦観察 ㊦実習などへの参加状況			

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業科	単位	2	教科	芸術	科目	音楽 I
学習教材	・教科書「MOUSA1」教育芸術社 ・「Music Note 基礎から学ぶ高校音楽」啓隆社, 世界の歌声 (教育芸術社)								
学習目標	(1) 音楽と歴史的・文化的背景の関わりおよび音楽の多様性について理解し, 創意工夫を生かした音楽表現に必要な技能を身に付けることができる。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや, 音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み, 感性を豊かにし, 音楽を愛好する心情を養う。								
単元と内容									
1 学期	さまざまな発声法を身に付けよう	・姿勢や体の使い方, 発声の仕組みについて理解を深め, 曲種に応じたさまざまな発声の方法を工夫しながらそれぞれの曲を歌う。 校歌/ O Waly Waly /花/小さな 空/ O sole mio							
	ボディー・パーカッションに挑戦しよう	・ボディー・パーカッションやコップを用いたリズム表現を通して, 音色や奏法, 表現を工夫し, 他者と協働しながら演奏する喜びを味わう。 ソルフェージュ/Plymouth Rock/ Clap, Tap with CUPS!							
	ポピュラー音楽に親しもう	・J-POP や歌謡曲を取り上げ, 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し, イメージをもって歌うとともに, 社会と音楽との関わりを考える。 群青/翼をください/歩いて帰ろう/若者のすべて							
	楽器による表現上の効果を感じ取ろう	・楽曲の文化的・歴史的背景や, 作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解し, 楽器の音色の特徴と表現上の効果との関わりを感じ取る。 動物の謝肉祭/交響詩「ティル・オイレン シュピーゲルの愉快ないたずら」ほか							
2 学期	表現を工夫して合唱やヴォイス・アンサンブルをしよう	・合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴を理解するとともに, それを生かして歌ったり, 他者との調和を意識して歌ったりする技能を身に付け, 自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。 残酷な天使のテーゼ/故郷/早春 /いつか, 海へ							
	さまざまな器楽アンサンブルを楽しもう	・各パートの役割を理解するとともに, 全体の響きをイメージしながら表現を工夫して, 器楽アンサンブルをする喜びを味わう。 ミッション: インボッシブルのテーマ/The First Noel/Twist And Shout							
	歌曲に親しもう	・曲想と歌詞の内容や楽曲の背景がどのようにかかわっているかを感じ取り, 歌と伴奏の役割を理解して独唱する。 この道/野ばら/Caro mio ben							
	オペラを鑑賞しよう	・作曲家について学ぶとともに, オペラの場面や心情などと, 音楽や演奏表現の特徴を感じ取りながら楽曲を鑑賞する。 オペラ「カルメン」							
	和楽器に親しみ, 音階を選んで旋律をつくろう	・和楽器の音色や奏法の特徴を理解して, 演奏する音階の雰囲気を感じ取り, イメージにあった旋律を創作することができる。 太鼓/篠笛/三味線/箏から適宜選択							
3 学期	ヴァイオリンに挑戦しよう	・楽器の構造と奏法の特徴について理解し, 弦楽器の美しい音色を味わい楽曲演奏に生かすことができる。 キラキラ星変奏曲							
	能や謡に親しもう	・謡の発声や歌唱法について学習し, 表現を工夫して謡う能の特徴や文化的・歴史的背景を理解し, よさを味わう。 能「安宅」							
	世界の諸民族の音楽に親しもう	・国や地域の音楽の特徴, 曲想と音楽を形づくっている要素とのかかわり, 文化的・歴史的背景を理解して鑑賞する音楽の多様性について理解を深める。 アリラン/ガムラン/世界の諸民族の音楽							
評 価									
評価の観点		到達度目標 [「B」(おおむね満足できる)の規準]	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け, 歌唱, 器楽, 創作で表している。	○	○	○	○	○		
②	思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, 自己のイメージを持って表現を創意工夫したり, 音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって鑑賞したりしている。		○		○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○		○		○		
評価方法	①		②		③				
	㊦実技試験 ㊧レポート, ノート ㊨学習の取り組み状況(観察, 聴取)		㊦実技試験 ㊩発表 ㊧作品提出, ノート ㊨学習の取り組み状況(観察, 聴取)		㊦筆記 ㊩実技試験 ㊧レポート, ノート ㊨学習の取り組み状況(観察, 聴取)				

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業科	単位	2	教科	芸術	科目	美術 I
学習教材	教科書「高校生の美術1」日本文教出版								
学習目標	<p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。</p> <p>(2) 造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していくことができる。</p>								
単元と内容									
1 学期	「鉛筆一本で」 「身近なものを描く」 「墨表現の可能性」 「きつときとの魚」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉛筆描写の基礎</li> <li>・鉛筆デッサン(葉、煮干しなど)</li> <li>・水墨画の技法演習</li> <li>・水墨画作品の鑑賞と模写</li> <li>・水墨画作品制作</li> </ul>							
2 学期	「好きな色いろいろ」 「デザインの基礎」 「平和になるためのポスター」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三原色、トーンの理解と混色</li> <li>・色の効果、カラーコーディネート</li> <li>・ポスターの鑑賞</li> <li>・現状や課題、解決方法の把握</li> <li>・タブレットを使ったポスター制作</li> </ul>							
3 学期	「油絵とは?日本画とは?」 「立体的に描く」 「季節のイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・油絵と日本画の鑑賞と画材について</li> <li>・三点透視図法・陰影</li> <li>・油絵作品の制作</li> <li>・友達の作品鑑賞</li> </ul>							
評 価									
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕					評価のフィードバック		
							1期末	2期末	学年末
①	知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色彩や構図や配色など造形の要素や、それらを基に全体のイメージや作風、様式などでとらえることを理解している。</li> <li>・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。</li> <li>・表現方法を創意工夫し、自分で決めた主題を創造的に表している。</li> </ul>					○	○	○
②	思考 判断 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画表現では、感じ取ったことや考えたこと等から主題を生成し、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</li> <li>・絵画作品の鑑賞では、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫等について考え、見方や感じ方を深めている。</li> <li>・デザイン表現では、目的や条件、美しさなどを考えて主題を生成し、機能や効果等について考え、創造的な表現の構想を練っている。</li> <li>・デザイン作品の鑑賞では、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫等について考え、見方や感じ方を深めている。</li> </ul>					○	○	○
③	主体的に 学習に 取り組む 態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画表現や、作品や美術文化の鑑賞の創造活動に、主体的に、試行錯誤や工夫を繰り返して、時間の限り粘り強く取り組もうとしている。</li> </ul>					○	○	○
評価 方法	①		②			③			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦観察</li> <li>㊧ワークシート</li> <li>㊨試作品</li> <li>㊩作品</li> <li>㊪作品コメント用紙</li> <li>㊫振り返り用紙</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦観察</li> <li>㊧ワークシート</li> <li>㊨試作品</li> <li>㊩作品</li> <li>㊪作品コメント用紙</li> <li>㊫振り返り用紙</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦観察</li> <li>㊧ワークシート</li> <li>㊨試作品</li> <li>㊩作品</li> <li>㊪作品コメント用紙</li> <li>㊫振り返り用紙</li> </ul>			

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業科	単位	2	教科	芸術	科目	書道Ⅰ	
学習教材	・教科書「書Ⅰ」光村図書									
学習目標	(1) 書の表現方法や形式、多様性について、書の創造的活動を通して幅広く理解し、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づいて効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けることができる。 (2) 書の良さを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができる。									
単元と内容										
1 学期	書へのいざない ・書写から書道へ ・用具、用材、表現方法 漢字の書の学習 ・書体の移り変わり ・楷書の古典に学ぼう ・うちわ制作・鑑賞	・書写と芸術科書道の違い ・筆、墨、紙、硯の種類 ・基本的な書道用語 ・漢字の五書体の変遷、仮名の誕生 ・楷書の特徴と古典臨書 ・楷書の用筆法、運筆法、字形の取り方 ・古典の特徴を深め、うちわ制作、発表、鑑賞								
2 学期	・篆書に親しもう ・篆刻を学ぼう 漢字の書の学習 ・行書の古典に学ぼう ・隸書に親しもう 仮名の書の学習 ・仮名の成立 ・仮名の基本を学ぼう 仮名の基本線 平仮名と変体仮名 ・仮名の古典を学ぼう	・篆書の特徴、用筆法、運筆法、字形の取り方 ・篆刻の意義、制作方法、氏名印の制作と押印 ・行書の特徴と古典臨書、用筆法、運筆法、字形の取り方 ・隸書の特徴、古典臨書、用筆法、運筆法、字形の取り方 ・仮名の成立と変遷、種類 ・仮名の書独特の筆使いと基本用筆 ・仮名の単体や連綿、全体構成 ・仮名の古筆臨書 ・仮名独特の流動美や紙面構成、表現 ・創作、鑑賞								
3 学期	漢字仮名交じりの書の学習 ・創作しよう	・漢字や仮名の古典を生かした表現の工夫 ・文字と余白の関係、全体構成を考えた表現、著作権 ・創作、発表、鑑賞								
評 価										
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の基準〕				評価のフィードバック				
						1期中	1期末	2期中	2期末	学年末
①	知識・技能	書の表現方法や形式、多様性を書の創造的活動を通して幅広く理解し、書の伝統に基づいて効果的な技術を身に付けている。					○		○	○
②	思考・判断・表現	書の良さや美しさを味わうとともに、意図に基づいた構想や表現の効果を理解し、書の伝統と文化の意味を考えて書の活動に生かしている。					○		○	○
③	主体的に学習に取り組む態度	書の伝統と文化に親しみ、主体的に書の幅広い活動に取り組もうとしている。					○		○	○
評価方法	①		②			③				
	㊦提出作品 ㊧確認プリント(小テスト) ㊨臨書プリント ㊩振り返りプリント		㊦創作・鑑賞プリント ㊧提出(創作)作品 ㊨振り返りプリント ㊩観察			㊦振り返りプリント ㊧関心・意欲・態度 ㊨添削数、配布手本の記入 ㊩観察				

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業科	単位	3	教科	外国語	科目	英語コミュニケーションI	
学習教材	・教科書「LANDMARK Fit English Communication I」啓林館 「サブノート」「WORKBOOK」啓林館									
学習目標	(1) 文章や会話などを聞いたり読んだりして、情報や考えなどの要点を、支援を活用して捉えることができる。 (2) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを論理性に注意して話し合ったり伝えたりすることができる。 (3) 身近な話題について、論理性と時制に注意して、5文程度の英文を書くことができる。									
単元と学習内容										
1 学期	Lesson 1 Enjoy your Journey!	・新生活での新たな目標のを見つけ方を登山家のエピソードを交えながらどのように目標を設定し、達成するのかを学ぶ。								
	Lesson 2 Curry Travel around the World	・カレーの起源からどのように日本に来て、人気が出たのを知り、今後のカレーの進化や未来のカレーについて学ぶ。								
	Lesson 3 School Uniform	・世界の制服事情を知り、制服の是非を自ら考えて、原稿を作成し、発表する。								
2 学期	Lesson 4 Eco-Tour on Yakushima	・ツアーガイドによるオリエンテーションという設定で、屋久島の名所の概略を事前学習する。								
	Lesson 5 Bailey the Facility Dog	・病院で働くファシリティドッグとそのハンドラーが、病と闘う子供たちやその家族たちとのふれあいを通じて医学的効果を考える。								
	Lesson 6 Communication without words	・世界の国々の言葉を用いないコミュニケーションを学び、ノンバーバルコミュニケーションの意味を考える。								
3 学期	Lesson 7 Dear World: Bana's War	・内戦の続くシリアの7歳の少女がSNSに発信した平和へのメッセージが世界にどのように広がり、影響を与えたのかを学び、SNSのもつ影響力を考える。								
	Lesson 8 The Best Education Everyone, Everywhere	・社会起業家の思いと挑戦を学び、将来の職業観や人生の目標について考える。								
評価										
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕				評価のフィードバック				
						1期中	1期末	2期中	2期末	学年末
①	知識・技能	・文の構造や内容を理解することができる。 ・情報や考え、気持ちなどを適切に伝えることができる技能を身に付けている。				○	○	○	○	○
②	思考・判断・表現	・文章の概要や要点を捉えることができる。 ・基本的な語句や文を用いて、論理性に注意して書いたり、話したりして伝えることができる。				○	○	○	○	○
③	主体的に学習に取り組む態度	・文章の概要や要点を捉えようとしている。 ・クラスメイトにわかるように、題材についての情報や考え、気持ちなどを伝えようとしている。					○		○	○
評価方法	①		②			③				
	㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト ㊨ 提出物	㊦ 定期考査 ㊧ 授業プリント ㊨ 音読テスト			㊦ 授業での発表 ㊧ 相互評価 ㊨ 提出物 ㊩ ペアワークなどの参加状況					

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業科	単位	3	教科	商業	科目	ビジネス基礎
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「ビジネス基礎」実教出版</li> <li>・「ビジネス基礎 準拠問題集」実教出版</li> </ul>								
学習目標	(1) ビジネスに関する基礎的な知識・技術の習得と定着ができる (2) 経済社会の一員としての望ましい心構えと社会人としての基礎力を身につける (3) ビジネスの諸活動に対応する態度を身につけ、能力を高める								
単元と内容									
1 学 期	1章 商業の学習とビジネス ・いざ、ビジネスの世界へ ・私たちの社会とビジネス 2章 ビジネスとコミュニケーション ・コミュニケーション ・ビジネスマナー ・情報の入手と活用 3章 経済と流通の基礎 ・経済の仕組みとビジネス ・経済活動と流通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業を学ぶ目的を把握し、マーケティング・マネジメント・会計・ビジネス情報の4分野を学習することで、専門的能力を身につけることの重要性を知り、自ら考え、自ら学ぶことで、卒業後の進路について考える</li> <li>・ビジネスの場面に応じた言葉の使い方など、基礎的なコミュニケーション能力を身につける</li> <li>・ビジネスにおける基本的なマナー、良好な人間関係を築くことの重要性を把握し、身だしなみ、心づかい、挨拶、言葉遣いの基本的なビジネスマナーを身につける</li> <li>・ビジネスにおける情報の活用を理解し、情報の信頼性を見極めることなど情報を入手する際の注意点を学ぶ</li> <li>・土地、資本、労働力といった生産要素の希少性や経済主体・経済循環など経済活動の基礎を理解するとともに、経済活動における流通の意義や役割を知り、生産から消費までの役割分担の変化や小売業の業種・業態の変化について理解する</li> </ul>							
2 学 期	4章 さまざまなビジネス ・ビジネスの種類 ・小売業 ・卸売業 ・物流業 ・金融業 ・情報通信業 5章 企業活動の基礎 ・ビジネスと企業 ・マーケティングの重要性 ・資金調達 ・財務諸表の役割 ・企業活動と税 ・雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスには様々な種類があることを学ぶ</li> <li>・小売業は、商品の販売のほかにも様々な役割があることや、多くの販売形態があることなどを学び、卸売業の基本的な役割を学習し、さらにその他の様々な役割がある事に関して理解する</li> <li>・物流業には、輸送業者・倉庫業者がある事を知り、それぞれの具体的業務について学ぶ</li> <li>・金融業の役割を理解し、その基本的な業務や仕組みについて学ぶ</li> <li>・情報通信業の役割を学び、おもな担い手である通信業者と情報サービス業者に関して理解する</li> <li>以上の役割を理解し、その中で求められる倫理観についても考える</li> <li>・いろいろな企業形態について学び、その中の株式会社を中心に理解する</li> <li>・資金調達の方法として、株式の発行や金融機関からの借入れなどがあることを学び、それぞれの特徴を理解する</li> <li>・税の意味と法人税、住民税、事業税、固定資産税、消費税の概略を理解する</li> <li>・わが国の雇用の特徴である終身雇用、年功序列、労働組合などについて学び、雇用の安定や福利厚生といった雇用に伴う企業の責任についても考える</li> </ul>							
3 学 期	6章 ビジネスと売買取引 ・売買取引の手順 ・代金決済 7章 ビジネス計算 ・ビジネス計算の基礎 ・ビジネス計算の応用 8章 身近な地域のビジネス ・さまざまな地域の魅力と課題 ・地域ビジネスの動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売買契約の決め方や条件について学び、とくに各種書類について学ぶ</li> <li>・通貨、小切手、手形、クレジットカード、電子マネーなどの代金決済の仕組みを理解する</li> <li>・仕入原価、売価の計算や外国貨幣の換算などビジネスに必要な基礎的な計算について学ぶ</li> <li>・度量衡の意味を理解し、単利や複利及び利息の計算について理解する</li> <li>・さまざまな地域の現状を知り、それぞれの地域がこれからは存続するための課題の解決策や地域の活性化についての対策を考える</li> </ul>							
評 価									
評価の観点		到達度目標【「B」(おおむね満足できる)の規準]	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技術	ビジネスについて体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身につけている	○	○	○	○	○		
②	思考・判断・表現	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として、合理的かつ創造的に解決する力を身につけている	○	○	○	○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	より良いビジネス社会の構築を目指し、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協同的に取り組む態度を身につけている		○		○	○		
評価方法	①		②		③				
	⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨検定試験 ⑩グループワーク等	⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨検定試験 ⑩グループワーク等	⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨検定試験 ⑩グループワーク等						

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業科	単位	2	教科	商業	科目	ビジネス・コミュニケーション
学習教材	・教科書「ビジネス・コミュニケーション」東京法令出版								
学習目標	(1) ビジネスにおけるコミュニケーションを実務に即して理解することができる (2) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、創造的に解決案を考えることができる (3) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して自ら学び、協働的に取り組む事ができる								
単元と内容									
1 学期	第1章「ビジネスとコミュニケーション」 「意思決定と組織の構成者」 ①組織の構成者としての行動②組織の階層化③意思決定 「信頼関係と人的ネットワーク」 ①職場における信頼関係の構築②取引先や顧客との信頼関係 第2章「ビジネスマナー」 「応対に関するビジネスマナー」 ①挨拶・お辞儀②身だしなみ・表情③名刺交換④紹介のしかた⑤敬語⑥言葉遣い⑦訪問⑧来客応対⑨席次⑩電話の受け方・かけ方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスにおけるコミュニケーションの概要を理解する</li> <li>・組織の階層化と意思決定の流れと方法や職業人に求められる倫理観を理解する</li> <li>・良好な信頼関係を構築し協働することの意義を理解する</li> <li>・職場における信頼関係を構築と接し方が仕事に及ぼす影響を理解する</li> <li>・ビジネスにおける人的ネットワークの重要性、ビジネスに与える影響を理解する</li> <li>・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であり、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合う存在であることを理解する</li> <li>・伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重する</li> <li>・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを理解する</li> <li>・受付案内などの応対時の挨拶、言葉遣い、表情、電話応対等について理解する</li> </ul>							
2 学期	「交際に関するビジネスマナー」 ①慶事②弔事③食事のマナー④贈答のマナー 「接客に関するビジネスマナー」 ①接客に心構えと方法②ホスピタリティの概念と重要性 第3章「ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション」 「ビジネスにおけるコミュニケーション」 ①言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション②話し方と聞き方の基本③報告・説得・交渉④プレゼンテーション⑤商品説明⑥断る、苦情対応⑦アイデアを創出する方法⑧会議⑨ソーシャルメディアを活用した情報発信⑩デパート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶事、弔事、贈答、会食などのマナーについて理解する</li> <li>・販売活動における接客の心構えと方法及びホスピタリティの概念と重要性を理解する</li> <li>・言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの違いと重要性を理解する</li> <li>・演繹法、帰納法、MECE、ポジショニング・マップ、SWOT分析、PPM分析などを用いて、筋道を立てるなど論理的な捉え方、分析方法や客観的に信頼性や妥当性などを見定めるなどの方法を学ぶ</li> <li>・ビジネスの場面を想定した討論、ビジネスに関するテーマを設定したデバートをを行う</li> <li>・会議、交渉、苦情対応、企画などの提案、商品などの説明、ワークショップ、ソーシャルメディアを活用した情報の発信などビジネスの場面におけるコミュニケーションを理解する</li> <li>・ビジネスの場面において相手の考えを迅速に理解して思考し、それを踏まえて自己の考えを伝える工夫、声の強弱と抑揚、話す速度、話の間の取り方、表情、視線の移動などの伝え方の工夫、相づち、姿勢など聞き方の工夫及びブレインストーミングなどにより協働してアイデアを創出する</li> </ul>							
3 学期	第4章「ビジネスと外国語」 「時代が求めるコミュニケーションスキル」 ①世界で通用する人材になろう②多様性の尊重③慣習の違いに対応する力④意思を伝える気持ち 「ビジネスの会話」 ⑩空港での入国審査⑪空港での税関審査⑫輸出入取引	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の海外進出の現状・課題や、企業活動が地球規模で経済を俯瞰しての直接的・間接的な他国との関わりについて理解する</li> <li>・ビジネスにおける外国語の重要性やビジネスにおいて英語が企業内での公用語となっている具体的な事例について知る</li> <li>・税関や空港での応対などビジネスにおける外国人との会話を学ぶ</li> <li>・輸出入取引の流れ及び取引に用いられる各種文書の一般的な形式と書き方を理解する</li> </ul>							
評価									
評価の観点		到達度目標「B」(おおむね満足できる)の規準	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技術	ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解することができる		○	○	○	○		
②	思考・判断・表現	ビジネスにおける様々な知識、技術などを活用し、コミュニケーションに関する課題を発見し、企業に及ぼす影響を踏まえ、理論、成功事例や改善を要する事例などについて解決策を考えることができる	○	○	○	○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学ぶ態度及び組織の一員としての自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と積極的にコミュニケーションを図ることができる	○	○	○	○	○		
評価方法	①		②		③				
	⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク	⑩相互評価シート	⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク	⑩相互評価シート	⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク	⑩相互評価シート			

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業科	単位	4	教科	商業	科目	簿記	
学習教材	・教科書「新簿記 新訂版」実教出版 ・「新検定基準 最新段階式 簿記検定問題集 全商3・2級」実教出版									
学習目標	(1) 簿記の仕組みを理解して作成できる (2) 複式簿記の基本的知識と記帳技術を養うことができる (3) 財務諸表を通じて企業のビジネス活動を把握できる									
単元と学習内容										
1 学期	○第1編 簿記の基礎 第1章簿記の基礎 第2章資産・負債・純資産と貸借対照表 第3章収益・費用と損益計算書 第4章取引と勘定 第5章仕訳と転記 第6章仕訳帳と総勘定元帳 第7章試算表 第8章精算表 第9章 決算 ○第2編 取引の記帳(その1) 第10章現金・預金などの取引 第11章商品売上の取引			・「簿記」の学習の意義や内容、目的について理解する ・資産・負債・純資産の意味を明らかにし、これらの相互関係を理解する ・収益・費用の意味、損益法を理解する ・簿記上の取引の意味と仕訳を理解し、勘定口座に転記する方法を学ぶ ・試算表、精算表の役割、種類、特徴を明らかにし、作成方法を学ぶ ・決算の意味と重要性を理解する ・現金に関する記帳方法を理解する ・商品売上の記帳方法を理解する						
2 学期	第12章掛け取引 第13章手形の取引 第14章その他の債権・債務の取引 第15章固定資産の取引 第16章個人企業の資本の取引 第17章販売費と一般管理費、税金の取引 ○第3編 決算(その1) 第18章決算整理(その1) 第19章8桁精算表 第20章帳簿決算 ○第4編会計帳簿と帳簿組織 第21章会計帳簿 第22章伝票の利用 第23章ソフトウェアの活用			・掛け取引の意味と記帳方法を理解する ・手形の仕組みと記帳方法を理解する ・各種の債権・債務の記帳を学ぶ ・固定資産の意味と記帳方法を理解する ・個人企業の資本を理解する ・販売費と一般管理費の意味と記帳方法を理解する ・個人企業の税金を理解する ・決算整理の意味と必要性を理解する ・8桁精算表の作成について学ぶ ・決算の流れを学習し、損益計算書と貸借対照表の作成方法を理解する ・3伝票を用いた場合の起票や集計方法のルールを理解する ・会計ソフトウェアの活用について学ぶ						
3 学期	○第5編 取引の記帳(その2) 第24章特殊な手形の取引 第25章有価証券の取引 第26章本支店会計 第27章最近の実務に広がる取引 ○第6編決算(その2) 第28章決算整理(その2) 第29章株式会社の取引と財務諸表			・特殊な手形の取引の意味と記帳方法を理解する ・有価証券の意味と記帳方法を理解する ・本支店間の取引の記帳方法を理解する ・最近の実務に広がる取引を知解する ・費用・収益の繰り延べ・見越しの意味とそれぞれの記帳方法を理解する ・株式会社の仕組みと取引を理解する						
評価										
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕			評価のフィードバック					
					1期中	1期末	2期中	2期末	学年末	
①	知識・技術	簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、的確に処理することができる			○	○	○	○	○	
②	思考・判断・表現	様々な処理方法や記帳方法について、なぜ、そのように行うかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫できる			○	○	○	○	○	
③	主体的に学習に取り組む態度	簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むことができる			○	○	○	○	○	
評価方法	①			②			③			
	⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク等			⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク等			⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク等			

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	商業科	単位	3	教科	商業	科目	情報処理	
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「ビジネス情報 新訂版」実教出版</li> <li>・「情報処理検定 模擬試験問題集3・2級」実教出版</li> <li>・「全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集3・2級」実教出版</li> </ul>									
学習目標	(1) ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術が習得できる (2) 情報の意義や役割について理解できる (3) ビジネス活動において情報を主体的に活用する態度を身につけ能力を高める									
単元と内容										
1 学期	1章 企業活動と情報処理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理の重要性</li> <li>・情報モラルと法規</li> <li>・コミュニケーションと情報デザイン</li> </ul> 2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータシステムの概要</li> <li>・情報通信ネットワークのしくみと構成</li> <li>・インターネットの活用</li> <li>・情報セキュリティの確保</li> </ul> 3章 情報の集計と分析 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスと統計</li> <li>・関数を利用した表の作成</li> <li>・グラフの作成</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な事例を基に情報とは何か、情報の意義と役割を理解する</li> <li>・身近な事例から情報の価値、情報を正しく取り扱うことの大切さ、そのために必要な情報モラルの基本的な考え方や態度を身につける</li> <li>・企業における適切な情報処理と関連する技術を理解する</li> <li>・コンピュータの基本的な機能と構成、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能、それを活用する基本的な技術を学ぶ</li> <li>・情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法を学ぶ</li> <li>・情報化社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法を学ぶ</li> <li>・基本的な操作や計算式及び関数、目的に応じて適切な表を作成する技術を身につける</li> <li>・表計算ソフトウェアを利用した、目的に合ったグラフの作成方法を身につける</li> </ul>						
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の整列・検索・抽出</li> <li>・問題の発見と解決の方法</li> </ul> 4章 ビジネス文書の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス文書と表現</li> <li>・基本文書の作成</li> <li>・応用文書の作成</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じた利用しやすい形での大量データの活用、表計算ソフトのデータベース機能、整列や検索、抽出の技法を身につける</li> <li>・基本的な社内文書や社外文書、作成に関する知識と技術を身につける</li> <li>・ワープロの多様な機能を利用した、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術を身につける</li> </ul>						
3 学期	5章 プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの技法</li> <li>・ビジネスにおけるプレゼンテーション</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義、基礎的な技法を身につける</li> <li>・目的や形態によるプレゼンテーション方法の違い、プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習、資料の作成などの発表準備から発表までの一連の活動を理解する</li> </ul>						
評価										
評価の観点		到達度目標 [「B」(おおむね満足できる)の規準]				評価のフィードバック				
						1期中	1期末	2期中	2期末	学年末
①	知識・技術	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている					○	○	○	○
②	思考・判断・表現	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている				○	○	○	○	○
③	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている				○	○	○	○	○
評価方法	①			②			③			
	⑦定期考査 ⑧副教材・演習			⑦定期考査 ⑧副教材・演習 ⑨検定試験			⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨プレゼン演習 ⑩検定試験			

